

薬局だより

輸液も医薬品のひとつ

皆さんは「輸液」と聞いて、どのようなものが想像できますか？

輸液とは一般的にはあまり聞きなれない用語ですが、点滴と聞けばイメージできる方は多いと思います。クリニックや病院にかかった際に、点滴として体内に入れている液体を輸液といいます。（厳密には100ml以上の液体と定義されています。）

輸液の目的には「水・電解質の補給」「栄養の補給」「血管の確保」「病態の治療」などがあります。中でも最も重要なのは「水・電解質の補給」すなわち、体液を正常な状態に保つことです。その次に「栄養の補給」を考えます。長期間食事が取れない場合は、水・電解質のほかに、糖質、タンパク質、脂質、ビタミン、などの栄養素をバランスよく投与しなければなりません。目的を知ると、輸液も重要な医薬品であることが分かりますね。

私たちは、水や食べ物から水分や電解質を体内に取り込んでいますが、ほぼ同じ量を体外に排泄してバランスをとっています。何らかの原因でこのバランスが崩れた場合、健康の維持が困難になります。その中の気を付けたい症状の一つに脱水があります。脱水とは、健康の維持に必要な体液量が不足している状態を言います。7月は梅雨が終わり、気温が上がり脱水を起こしやすい時期なので注意が必要です。真夏の炎天下で長時間作業をして汗を多くかいたときなどは、からだ全体から水分が失われます。このような時は、維持液といわれるソルデム3A輸液やブドウ糖液などが投与されます。熱傷や手術による出血や嘔吐・下痢などで体液が急になくなる時などは、ソルアセトF輸液や生理食塩液などを投与します。

医薬品と聞くと内服薬や湿布などの外用薬のイメージが強いですが、何気なく行っている点滴の輸液も医薬品のひとつです。このように、私たちの身近には医薬品があふれています。

＜参考＞大塚製薬工場「輸液の基礎知識」

「水・電解質輸液」「輸液と栄養」

（薬剤科 本多眞貴）

総合南東北病院広報誌「南東北第341号」より転載